

## 茨城県の沖と内陸部の地震に見られる呼応関係

茨城県とその沖合では、海域部（A）と内陸部（B）で、顕著な地震が時間的に近接したペアになって発生する傾向が見られる。その特徴は以下の通りである。

- (1) 1885～1983 年の約 100 年間に、ペア地震現象が少なくとも 5 例認められる。
- (2) 上記の 5 例について、対をなす地震の発生間隔は、0.1～1.5 年であった。
- (3) A と B のどちらが先行するかは決まっておらず両ケースがある。
- (4) 対をなす地震の規模の間には正の相関が見られる。

A 領域では、5 月 8 日に M7.0 の地震が発生した。上記の経験則に照らして、B 領域の今後の地震活動には特段の注意が必要と考える。

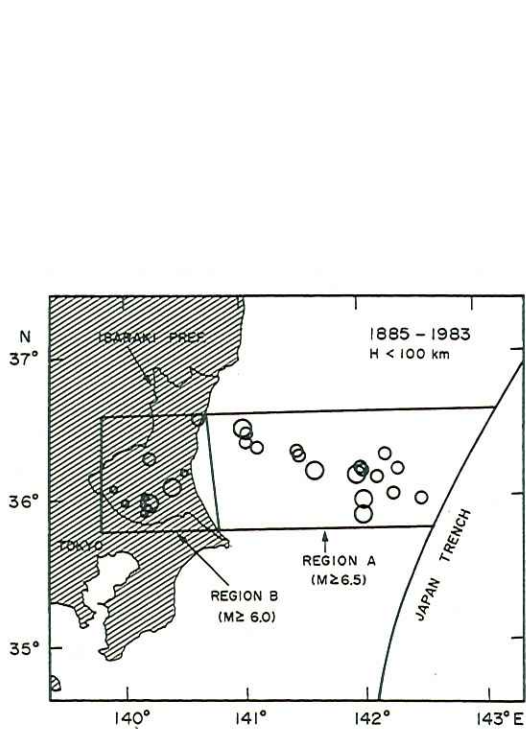


図 1. 顕著な地震の震央分布 (1885～1983 年).  
海域 (A) : M ≥ 6.5, 陸域 (B) : M ≥ 6.0.  
(Ohtake (1986) による)

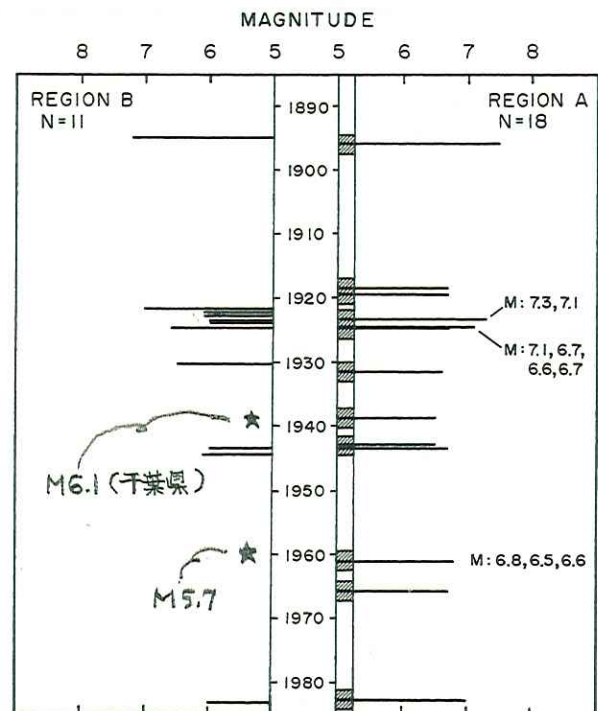


図 2. 左図に示した地震の M-T 図.  
(Ohtake (1986) に一部加筆)

### 〔文献〕

- ・大竹政和・笠原敬司, 1983, 茨城県地域に見られるペア地震現象, 地震 2, 36, 643-653.
- ・Ohtake, M., 1986, Synchronized occurrence of offshore and inland earthquakes in the Ibaraki region, central Japan, Earthq. Predict. Res., 4, 165-173.